

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

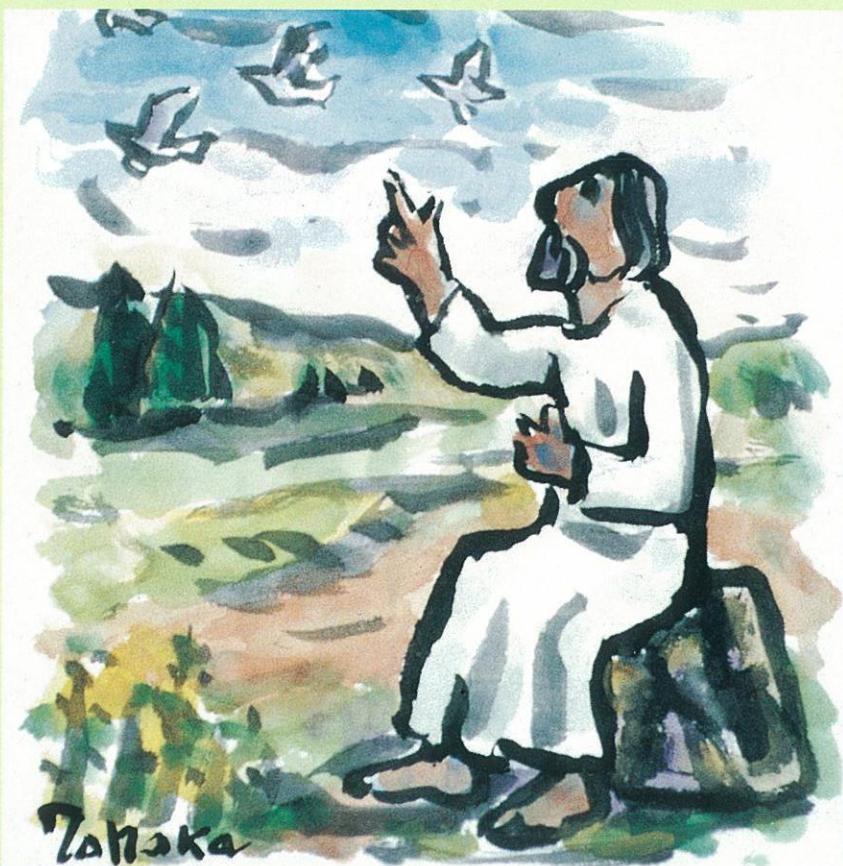
KEIWA

COLLEGE REPORT

第3号

〈JANUARY 1994〉

発行/敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP

菅野教授に聞く

1993年度 ヴォランティアーウィーク報告

特集 SPECIAL REPORT 国際交流

小邦宏治氏の講演から / 佐渡 民俗調査



今年の「敬和ふれあいコンサート」は、9月17日・18日の二日間で行われました。これは、福祉施設の方々及び一般の地元の皆さん共にご参加いただけたためで、昨年までは昼の部と夜の部にわけて開催しておりましたが、今年は17日が公開講座の初日と重なったためです。

写真は、コンサートの中で初めてご出演いただいた敬和学園高等学校声楽部の皆さんによる「ハンドベル」の演奏風景です。素晴らしい音色とチームワークに、感動いたしました。

ご出演いただいた方々、ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



もくじ

菅野教授に聞く	1	(特集) 国際交流	7
三年次生保護者懇談会報告	3	佐渡民俗調査	10
(ゼミ紹介) 大海ゼミでは今	4	小邦宏治氏の講演から	12
1993年度ウォンティアーウィーク報告	5	入試日程	13
ウォンティア活動の研修先施設一覧表	5	教職員おめでた・おくやみ	13
「敬和ふれあいコンサート」参加施設一覧表	6		



菅野教授に聞く

聞き手
富所澤雄利子介

学生主任・就職委員長として活躍中の菅野浩教授にお話を伺いました。

——本日はお忙しい中ありがとうございました。
菅野先生は就職委員長、学生主任としてお骨折りいただいているわけですが、まずその辺のお話からお伺いしたいと思います。

そうですね、どちらもいろいろな問題を抱えておりますが、まず、就職委員会についてお話をしたいと思います。

何しろすべて初めてのことばかりです。就職委員をはじめ、教員、学生とも戸惑うことばかりですね。就職は入学という入口に対しての出口となるわけですが、この出口がしっかりといるか否かが大学の評価ともなるわけです。

通常、就職活動といえばOBの影響が大きく、活動の方法や企業についての情報収集、アドバイス等先輩から教わることが多いのですが、本学は三年次生が第一回卒業生となるため就職活動とは何かということからアドバイスしていかなければならぬと思います。というわけで六月から三年次生を対象にガイダンスを行っていますが、参加者数が五割から六割程度とまだまだ学生の認識が低いように思います。

——富山国際大学を見学されたとお聞きしていますがいかがでしたでしょうか。——大変参考になりました。富山国際大学は本学より一年先輩ですので今年がはじめての就職活動となつたわけですが、今年度の就職状況は大変厳しいと言われているなかで、富山国際大学の就職内定状況は男子七五パーセント、女子六〇パーセントとかなり健闘していました。

——新設大学としてはかなり高い就職内定率ですが、具体的にはどういった対策をとっているのでしょうか。——

ひとつには、富山県内の大手企業よりも中小企業を中心として今まで大卒の採用実績のなかった企業を含めて細やかに対応しているのでしょうか。

うことにこだわらず教職員全員で対応することが重要だということですね。就職担当者が精力的に企業訪問をしてもその数には限界がありますので、細やかな対応をするには教職員全員の協力が不可欠ということです。

——なるほどそうですね。ほかにも就職に関する問題点があるかと思いますが、学生主任としてのお立場からもご意見を伺いたいと思います。——

学生主任として考えていることは、いかにして大学生活を魅力あるものにしていくかということですね。高校生活とは違う世界、そしてエンジョイでき、かつ充実した四年間を過ごすことができるということを学生に知って欲しいですね。

——具体的にはどういう点が大切だとお考えですか。——

高校生の声を聞いてみると大学に入ったらクラブ活動に力を入れたいという意見がかなりあるようですね。やはり、クラブ活動を通じて学生生活を充実したものにし、友人の輪を広げていくことは、大切なことだと思います。しかし、本学のクラブ活動については、学生自身も手探りで活動している部分が大きいため、まだまだ盛り上がりに欠けていると思います。ですから、教員のほうから手助けをしていく必要があると思

CLOSE UP

——名前を連ねていいだけの顧問ではなく本当にその活動が好きな方に活動していただけたことが理想なのですが、今のところ学生委員の先生からは「名ずつ体育系と文科系クラブの面倒をみていただいている」

——その他にはどういったことをお考えでしょうか。——

やはり、大学というものは研究の場ですか、ゼミで議論が活発になれば講義終了の時刻になつてもそのままゼミを延長して行えるような体制にすることが望ましいと思います。せっかく熱が入つたところなのにそこで中断するというのは残念なことです。ゼミの活動が活発になることが、講義全体の活性化につながり、クラブ活動の活性化とあわせて大学全体の活性化につながると思います。

その他には学生の声を拾つてみたいですね。学生にもいろいろ意見や不満があると思いますので、そういう声を聞くことが改善や活性化への材料となると思います。

——先生の講義を通じて何か感じられることがありますか。——

私は一般教育の自然科学概論を担当していますので学生にとっては専門外の科目となるわけですが、講義の半数くらいの学生は興味深そうに聞いていますので、その点は満足しています。どの講義もどうかと思いますが、小人数で講義を行うほうが、講義をするものにとっても聞くものにとっても充実すると思います。

——先生は自然科学概論をご担当されていましたが、ご専門はどういう分野なのでしょうか。——

私の専門は生化学という分野になります。一言でいえば生体の化学です。

——やはり生物が好きでこの分野に入られたのですか。——

いいえ、そうではなく生物は嫌いで、解剖など気持ち悪かったです。旧制高校の時は東大の外科の助教授や順天堂大の外科の教授となつた仲間と一緒に組んで解剖しましたので助かりましたね。私のクラスは医学部に進学するものが多かったのですが私は理学部の化学科に進学しました。そこで物質の構造を専攻しました。具体的には分子構造や極微の世界となるわけですが、研究の対象としては気体や結晶など比較的物理の理論を適用して研究しやすいものになります。理論としては整然としています

が、実際に自然界に適用しようとすると簡単なものにしか適用できないので無力さを感じました。ですから、もっと複雑なもの、解剖は嫌いでしたが生物のほうへと対象が移っていました。

——先生のご専門は研究の対象が人間だった医学部と同じ研究といつていいのでしょうか。——

そうなりますね。医学部以外の生化学といえど農学部や歯学部、薬学部、最近では工学部でも研究されています。そういう意味では、生化学は非常に広い分野にまたがっているといえます。また、複雑な領域なので、あることがわかると、わからないことが増えてくるというところが興味深いところですね。しかし、三十年や四十年の研究ではほんの一部にしか過ぎませんね。新潟大学を退職したときには、これから生化学についての未知の分野を追及するために本

宇宙の無限の神秘について学生にも知つて欲しいと思いました。地球が属している太陽系は天の川銀河に属しています。この天の川銀河には一千億もの星があり、その外側にはさらに一千億もの銀河が宇宙に広がって存在しているということです。このようなことについて初めて知ったときは、私自身も大変驚きました。こんな雄大な話を聞けば人生観も変わってくるのではないだろうかと思い学生にも聞かせたいと感じました。また本学はキリスト教主義に基づいていますので、神について考え



るにしてもいろいろな見方ができるのでは
ないかと思います。

——先生は環境問題にもお詳しいそうですね。

エネルギーの問題を考えるとそちらのほうと関連しますので。あと五十年もすると石油が枯渇してまいります。二〇二〇年くらいになると日本は窮地に陥りますね。石油は燃料として使っているだけではなく、様々な製品を作っていますので、それらを最終的に処分することも環境問題の一つとなります。地球の資源、スペースには限りがありますので、その中で人間が仲良く共存していくかなければならぬと思います。現状を理解した上で地球の未来をどうしたらいいかを知ることが大切で、それには環境問題の勉強が良い助けになると思います。

——石油に代わるエネルギーとしてはどういったものが考えられますか。

太陽エネルギー、原子力などがあげられます。太陽エネルギーを利用するにしてもより使いやすい機械を開発しなければなりませんし、原発は核廃棄物をどのようにして処分するかという問題がありますね。その他に考えられるのが核融合です。しかし、その良い材料は月にあります。将来、月からその材料を持ってきてエネルギーとして利用することはできると思いますが、石油が枯渇するころまでに実現するかどうかは難しいところですね。

——廃棄物を処分するのも限りがあるとおしゃいましたが、その辺についてはいかがですか。

廃棄物の埋立用地にも限りがありますし、処分の費用も相当かかります。東京の一年

間のゴミの処理費用は都庁建設費用分に当するそうです。毎年ゴミを処分するため

にあの巨大な都庁一個分の費用が使われているわけです。また埋立地に限界があるばかりでなく、廃棄物の中のほうでメタンガスが発生したり、雨が降ると有害物質が地下水に浸透したりと様々な公害問題へつながっていきますね。ですから、我々はこのような問題を認識しながら共存していかなければならぬのです。

——ありがとうございました。今日は様々な角度から興味深いお話を伺うことができました。

去る六月三十日、新潟東映ホテルにおいて、三年次生保護者を対象に、懇談会が開催された。これは、あと一年半後に控えた就職に備え、保護者に現在の就職戦線の状況と大学としての取り組み方を説明するために開かれたもので、参加者は約百六十名だった。次第は次のとおり。

学長挨拶

最近の経済動向と大学生の就職事情

就職委員

大海 宏教授

大学としての就職への取り組みについて
就職活動を始めるに当たって

就職委員 西澤 昭夫助教授

北垣 宗治学長

その後、敬和学園大学後援会長の渡辺優氏の挨拶があり、懇親会が開催された。

またそれに平行して、各クラス毎に、アドバイザーの先生と保護者の個人面談があり、学生の学園生活の様子や、成績について具体的な懇談があつた。クラスによつて出席者数に差があつたことや、懇談に熱が入つたことで、終了時間を延長することになり、ご迷惑をおかけしたが、参加者からはぜひひまたこのような機会を設けて欲しい旨

三年次生 保護者 懇談会報告



の要望が寄せられていた。

大学としても学生の就職については初めての取り組みになることから、就職委員の先生がたは企業回りを中心に、積極的な活動を展開している。

大海ゼミでは今

教授 大 海 宏

ゼミ紹介

第2回リトリート

教授・宗教主任 延原時行

大学で教えていていちばんうれしいのは、学生諸君の成長を目のあたりにする時である。本年を振り返ってみて「これは敬和大生の伸びるきっかけになっているな」と実感したのは、十月十日、十一日、秋爽やかな妙高高原池の平「向山荘」（日本キリスト教団関東教会所有）で開催した第二回リトリート「出会いの場所、敬和」であった。何故そう感じたのか。

参加者は、一年女子三名、二年男子四名、三年男子二名、女子一名の計たった十名。教員は、北垣宗治学長、安藤司文教授、野村啓治講師、山田耕太助教授と私の五名。決して多くない。しかしその中に大学の学問教育にとって何にもかえがたいものが息づいていた。語り合いと究極者の前での礼拝と讃美、そして共同の食事、スポーツである。そして何かがうごきはじめた！

三回の礼拝は山田先生と私が担当し、「友情」「神の音楽」「新生」につき語った。野村先生司会で学園祭、アドヴァイザーリー制等をめぐり、腹藏なく語り合った。「学長大いに語る」と「安藤司文先生を聞く」の二つの講話には、大学の理念と創造的発想を学んだ。JR妙高高原駅前でソバの昼食に舌なめずりを打ち、賑やかに帰って来た。

ゼミ生募集の際には、「役立つ国際人養成の場にしたい」とうたった。目指す内容は、①明確な自分の専門分野を一つ持った上、②外国の新聞雑誌を読みこなせるだけの語学力と③（望むらくは）常識、趣味、教養を備えた卒業生を送り出すことである。

「役立つ」と「国際人」となることは同程度の重味がかかる。それに大学を出たら、何としても胸を張って「私の専攻は何々」と言える人であつて欲しい。特に国際文化学科にあつては、万遍なくカリキュラムをこなしていくた場合、ややもすれば「Jack（もしくは Jill）of all trades」になりかねない。

私のゼミで専攻するテーマは外國為替。本当に究めようと思えば確かに難解な代物である。しかしその一方、私たちの日常生活や国の経済全体にかかる身近なテーマであるのも事実。毎日の新聞やテレビニュースで為替が全く出ない日がある珍しい（今日も「円高不況」の文字が踊っている）。このゼミにとって幸いなことは、歐米の代表的な新聞雑誌にも、常にわれらが

専攻テーマに関する報道、論評などが豊富に見付かることである。しかも日本なり円相場に絡んだものが最近は結構多い。実践的な外国語習得に又とない教材となる。私のゼミでは毎回時間の半分をフレッシュでホットな「外紙・外誌」講読にあてている。

一年のしめ、年間のハイライトは「東京ゼミ合宿」である。紙の上で習った外国為替市場のナマの動きを自分の目で確かめに行く。銀行、証券会社、為替フローカーや取引所などを訪れて専門家と懇談する。今年は十二月下旬の二、三日間を予定している。



一九九三年度

ヴォランティアワーク報告

ヴォランティア委員長 松崎洋子

今年度の本学のヴォランティア・ヴィーカは敬老の日をはさみ、九月一三日から一八日までの一週間でした。

この期間、総勢二三五名の学生が学内オリエンテーションを受けた後、二日間にわたり新発田市や新潟市をはじめ、その近郊の四十に上る社会福祉施設でヴォランティア体験学習をさせていただきました。これは主として一年生を対象としたプログラムでしたが、一七日および一八日に開かれた第三回敬和ふれあいコンサートでは、五十名を越える二年生、三年生がその準備や私たちがお招きしたこれらの施設の方々のお世話など、コンサートにまつわる一切の仕事をボランティアとして携わりました。

一年生が体験したこととは、今後ヴォランティア活動に関わって行くための予備研修ともいうべきものでした。ヴォランティア活動はおろか、社会福祉そのものにあまり関心を抱いていなかつた若者にとって、各施設の責任者あるいは職員の方々から説明を受けたり、心構えを教えていただくことから始めて、少しずつ実際の活動らしきものを経験させていただいたことは大変有意義であったと思われます。

ヴォランティア委員は何人かの教員、職

員の協力を得て、短時間ではありましたがあ手分けをして全施設を回りました。

初日の学生たちの緊張ぶりや、二日目のいくらかリラックスして笑顔も見えるようになつた様子、作業への慣れ具合などを目の当たりにしてほっとする一方、ご迷惑なお願いにもかかわらず、このヴォランティア・ヴィーカの趣旨をご理解くださった施



ヴォランティア活動の 研修先施設一覧表

川端福祉作業所

日和山福祉作業所
わかば作業所

大山台福祉作業所

東福祉作業所
ふれあいの家

ボプラの家

新潟県基準寝具(株)
緑風園

仁福祉作業所

下越障害福祉事務組合救護施設
社会福祉法人二王子会

特別養護老人ホーム 二の丸
新発田市しば草会 通所作業所

新潟市立本丸中学校
社会福祉法人 七穂会

ひまわり荘
あやめ寮

新発田市社会福祉法人 七穂会
通所作業所

特別養護老人ホーム 希望の家

新発田市立本丸中学校
社会福祉法人 七穂会

虹の家
つくし会作業所

とっさか

豊栄市福祉作業所 歩みの家

ひしも会作業所

水原郷福祉作業所
さくら会作業所

聖籠福祉作業所 すぎの子の家
養護老人ホーム 胎内やすらぎの家

浦田の里
村上市福祉作業所 みどりの家

設の責任者の方々の学生に対する心のこもったご配慮に恐縮するとともに感謝の念を新たにいたしました。

お年寄りの話し相手になるだけで喜ばれ

るのにどう話しかけていいのかわからないもどかしさ、自分と同じ年頃なのに言葉と

いうコミュニケーションの手段を持たない人に接すればいいのだろうかと

いう最初の戸惑い、細かい上に技術も根気も必要な作業に対して支払われる微々たるお金と自分がアルバイトで手にする金額との落差への同情とそのよ

うな現実に対する怒り：

研修を終えて再びキャンバスに戻り、彼らが書き上げたレポートの多くには、一年生全員参加という大学の方針に疑問を投げかけながらも、このような機会があったからこそ得られたもので、自分にとって大きな意味のある体験となつた、と書かれていました。

「お年寄りを風呂にいれてヒゲを剃つてあげたり、体を洗つてあげたりしているうちに、何かわからぬけれど、自分とそこにいるお年寄りとの間に自分でもよくわからぬ何かが生まれたような感じがしました」

「私が彼らにしてあげられたことはほんの少し

だったが、彼らは私にいろいろなことを教えてくれた。強制的なボランティアではあったが、この施設に行けて良かつたと思う。しかし、何よりもうれしいことは、この私がまたそこに行こうと思っていることだ」

最後にこの紙面をお借りして、今回のボランティア活動オリエンテーションならびに敬和ふれあいコンサートにご協力くださったすべての方々に厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



敬和ふれあいコンサート

松風園
さつき園
いいでの里
二王子温泉病院
やまやの里

大峰寮
いじみの学園
ひまわり学園
新発田市デイサービスセンター

やまやの里

社会福祉法人 七穂会 虹の家
福祉作業所 希望の家
のぞみ工房
水原郷福祉作業所
新発田市中学特殊教育
豊栄市福祉作業所 歩みの家
ひしも会作業所
ボプラの家
十字園

「敬和ふれあいコンサート」 参加施設一覧表

※そのほかにも個人で多くの方々がご参加下さいました。

ご協力いただきました施設の方々に、この場をお借りして、心から厚く御礼申し上げます。

特集

SPECIAL REPORT

国際交流

国際交流委員会

委員長 片桐邦郎

敬和学園大学に「国際交流委員会」が設置されたのは、一九九三年（平成五年）の一月である。一月の教授会で設置が承認されたのだが、開校二年たった大学には、す

で、「一、一年生が在学しており、夏期の短期留学も一回実施され、また、外国人留学生も一、一年にわたって数名在籍していた。それが二年間にわたる期間に、大学には各種委員会が発足し、活動しており、その中には、本学の特色としての「キリスト教と教育委員会」や「チャオランティア委員会」などもあり、「国際交流委員会」の設置は、遅れていたとも云えるだろう。

国際交流委員会の活動としては、夏期の短期海外留学の組織化と、在学している外国人留学生に対する対応の二つがあ。短期海外留学としては、初年度は

- 1 Northwestern College
(Orange City, Iowa)

- 2 California State University—
San Bernardino

一年目は、右のアメリカの一ヶ所のほかに、イギリスで、

～Anglo-Continental 主催の Intensive English Courses

が加わり、三ヶ所になったが、参加者は全體で十九名であった。

最近、日本の留学生が海外で事故にあった機会が多く、保護者（保証人）としての御心配もある」とから、一九九三年の夏の短期留学からは、本委員会が積極的に事前のオリエンテーションや面接を行い、セミナー受講やホームステイの心得を徹底させていく。出発前には、保護者に手紙を出し、留学期間中の緊急連絡も心がけている。その結果、第二回目の短期留学は、四十四名が参加した。

敬和学園大学の短期留学の特色は、留学の成果を単位認定する制度があることだ。そのためには、留学前と留学後とに、英語のテスト（七ヶ所に聞き取り中心）を実施している。

また、国際交流委員会の活動として、入



学した外国人留学生の対応がある。外国人留学生の滞在中の生活から、奨学金の申請、

さらには、就学上の日本語能力に至るまで、多種多様な問題がある。その相談にのね」とも、重要な仕事である。本人の申し出から指導したところ、外国人のスピーチコンテストで賞を取った留学生もいる。将来は、ロシヤからも留学生が来るだろ

SPECIAL REPORT

うし、また、帰国子女を受け入れる」とで、在学生に対しても国際感覚やら国際交流が活発になることもあるだろう。

国際交流委員会としては、将来に向けて発展的な視野で対応を考えねばならない。スタッフは、現在はブラウン助教授と野村講師と私の三名で、教務の船岡さんに運営上の手伝いをお願いしてあるが、将来にむけては、皆様のお力ぞえをお願いしなければならないだろう。

学校へ行く時はいつもバスに乗っていきましたが、帰る時はバスに乗ると四十五分の道程を友人と一緒に倍の時間をかけて、通り沿いの店一軒一軒でウインドウショッピングをしながら帰りました。それぞれの店で店員さんと会話をして話が通じたときは、とても感動しました。

カリフォルニア大学サンバナディノ校
ホームステイを体験して

92 E 062 真田智子

◆ 夏期短期留学 体験レポート



アングロ・コンティネンタル
イギリスを訪れて

93 K 105 田中雅子

今回初めて海外に出た私にとって、イギリスはとても素晴らしい、また、イギリス人は私を温かく迎えてくれました。

月曜日から金曜日までアングロ・コンティネンタルのスクールに通い、そこではアラブ人やスペイン人、イタリア人、ロシア人など色々な国々の人達との出会いがありました。

授業では、文法や会話を学んだり、それぞれの国の文化に関する情報を交換し合いました。他の国人達はとても日本語に興

トフアーザー、ホストマザー、九才、七才、四才、一才の女の子の子達の六人家族でした。私は一人っ子なので一気に兄弟が増えたようで、学校から帰ると一緒に遊んであげたり、夜、本を読んで寝かせてあげたりしました。ホストマザーはギターが上手かったので、私がギターの演奏に合わせてピアノを弾くとファミリーが楽しそうに聞いていました。また、キラキラ星やセサミストリートなどの歌をピアノで弾くと、子供達はピアノの伴奏に合わせて喜んで歌つてくれました。

授業の無い週末は、ロンドンやオックスフォード、ワイト島などたくさん小旅行をしました。バッキンガム宮殿が公開されていたので、午前三時に家を出て早朝から並んで、中に入ることが出来ました。宮殿の内部はとても広く、言葉で言い表せない程感動しました。



「あ！あぶない、でも平気？」カリフォルニア州立大学サンバナディノ校
フィールドトリップ、グランドキャニオンにて 1993.8.6

私にとって日本から出国するということは初めての経験で、ロサンゼルス空港の入国審査の時に、アメリカに来たという実感がわいたと同時に、とても緊張していたことを覚えている。

日本から遠く離れたアメリカで有意義な五週間の留学生活を送ることができた。

しかし、アメリカに着いてすぐの週末は、苦痛なほど長く、とても寂しかった。ホス

も学ぶことが出来ました。もう一度、素晴らしい経験を求めてイギリスを訪れたいと思っています。

SPECIAL REPORT



オランダ系移民の町オレンジ・シティの名物「風車」の前で
ノースウェスタン大学ヴァンダウェルフ教授と共に

1993.8.1

トファミリーの家に着いてすぐに、ホストマザーの実家のプールパーティーに参加した。たくさんのアメリカ人の中に入っていたことが、なかなかできずに何時間もプールにつかるはめとなつた。ほとんど話しかけず、そして話しかけてもらえない、自分の消極的な性格が嫌になつてしまつた。しかし、プールサイドで食べた本場のハンバーガーはとてもおいしかつた。二日目のホストファミリーの友人宅でのディナーも同様だつた。自分から積極的に話すことが出来るようになるまでに一週間もかかつてしまつた。アメリカ人とコミュニケーションをとることは難しかつたが、私の下手な英語を一所懸命理解しようとしてくれたホストファミリーにはとても感謝している。

教会でのボランティア活動により、様々なことを知ることができた。アメリカには多くの失業者、ホームレスがいるとは聞いていたが、子供達までが犠牲になつてゐるとは考えていなかつたので、家族連れのホー

ムレスには驚かされてしまった。きまりを破つてまでパンを三つも持ち帰ろうとしている子供達がかわいそつた。ひとりの少年は、無理矢理持つていたパンをかごに隠して、私に笑いかけて帰つていつた。

アメリカでは、様々な体験ができたし、色々な事を考えさせられるような出来事もあり、若い私にとってとても貴重な日々だつた。アメリカで迎えた二十歳の誕生日は、大切な思い出となつた。

ノースウェスタン大学 二度目のアメリカ

91 E 001 阿部 則子

今回のノースウェスタン大学は、昨年のカリフォルニア州立大学サンバナディノ校に続き、私にとって二度目の留学となつた。同じアメリカでもこうも違うものかと思われるほど、アイオワはカリリフォルニアとは違つた様相を呈してい

思われるほど、これから来るのかもしれない。

私の授業は聖書の勉強が中心であったが、発音や作文、語彙を増やすような勉強がもつとできたらよかつたと思う。また、私は滞在期間はノースウェスタン大学の学生は夏休みのため、普段の大学の雰囲気を味わつたり、学生と話をしたりできないのは残念である。

今回の滞在で、私はまた違つたアメリカを知つた。アメリカはまだまだ多くの顔をもつてゐるのだろう。ワシントンは? ニューヨークは? 私はますますアメリカという巨大な国に魅せられてしまつた。

空港を出ると一面コーンフィールド。空の青とコーンの緑が美しくすがすがし

い風が吹いていた。カリフォルニアの暑い日さし、そびえ立つ椰子の木々とは大違い。習慣、風習といったものも違つた。私が驚いたことの一つは、オレンジシティがキリスト教がとても深く浸透した町であることであつた。学校では朝、礼拝の時間が設けられ、人々は食前に必ずお祈りをし、後には聖書の一部を読む。日曜は盛装をして教会に行くことで半日が終わる。昨年私が滞在した家では宗教的習慣といつたら、食前にお祈りをするくらいのものであつた。このような環境にあるのだから、当然オレンジシティの人々の考え方の根底にはキリスト教がある。彼らはこの世のすべては神の創造物であり、神を信じていれば救われると信じている。ほとんど無宗教に近い私のような一般的日本人にとっては、このようないくつかの考え方を理解できず、かえつて反発したくなる面もあつた。しかし、人々の優しさ、温かさ、力ギをかける必要のない安全感は、キリスト教を基盤とする心の清らかさから来るのかもしれない。

私の授業は聖書の勉強が中心であったが、発音や作文、語彙を増やすような勉強がもつとできたらよかつたと思う。また、私は滞在期間はノースウェスタン大学の学生は夏休みのため、普段の大学の雰囲気を味わつたり、学生と話をしたりできないのは残念である。

今回もまた違つたアメリカを知つた。アメリカはまだまだ多くの顔をもつてゐるのだろう。ワシントンは? ニューヨークは? 私はますますアメリカという巨大な国に魅せられてしまつた。

佐渡 民俗調査

二十八日(土) 午前

諏訪神社及び豊田地区の方々に挨拶

午後一二時四〇分両津港発

午後三時 新潟港着・ミーティング

宿泊地

「佐渡」佐渡郡真野町豊田地区
一九九三年八月二十四～二十八日

(四泊五日)

豊田諏訪神社の祭礼

及び地域社会の民族調査

テーマ「宗教と地域社会」

(B) 参加者(一〇人)

教師 神田 より子

学生 米山信治

佐藤有理子

宮澤聰子 鬼山さかえ

見尾田忍 菊地英範

中澤大介

真野町教育委員会

欠席 刑部裕美(盲腸のため)

菅野由貴子

田中淳

諏訪神社の文書調査

(A) 日程
七月三日(土) 午後一時～六時 合宿のための資料読書会
八月二十三日(月) 午後一時～六時 合宿のための勉強会
二十四日(火) 午前九時三〇分新潟港発
午後 十一時五〇分両津港着



(D) 調査項目
今回の調査項目は大きく「社会と民俗」、「神社の祭礼」にわけた。そのうち社会と民俗では、歴史と地理的位相、社会組織、親族関係、民俗(年中行事と人生儀礼を中心に)、そして神社の祭礼では、神社の歴史と、祭礼の現状を取り上げることとした。

調査の内容

(1) 社会と民俗

① 歴史と地理的位相

地域の歴史、佐渡における地域の位置、神社と地域社会、地域における神社の位置付け、縁起に見る神社と周辺聖地を取り上げる。そして地域の人々が伝えてきた話から、伝承に見られる地域をさぐる。また地域の村制や、都市計画図などから、資料に見る地域地域を読み取る作業をする。そして今ある社寺、小祠、石碑や信仰伝承から地域社会の信仰を考える。

② 社会組織(地縁集団を中心)

祭祀組織、檀家組織、自治会、年齢集団を考える。

③ 親族関係(血縁集団を中心)

イエ及び家族の範囲と概念、親戚の範囲と概念、及びつきあい方、親戚の範囲と概念、呼称、つきあい方を考える。

本間義英氏

(諏訪神社奉賛会役員)

本間久雄氏

(諏訪神社奉賛会役員)

浜田一松氏

(諏訪神社奉賛会役員)

旧杵浩氏

(諏訪神社奉賛会役員)

清安昇氏

(諏訪神社奉賛会役員)

本間吾一氏

(諏訪神社奉賛会役員)

山路長蔵氏

(諏訪神社奉賛会役員)

金子靖氏

(諏訪神社奉賛会役員)

佐々木健二氏

(諏訪神社奉賛会役員)

本間吾一氏

(諏訪神社奉賛会役員)

金子靖氏

(諏訪神社奉賛会役員)

浜田一松氏

(諏訪神社奉賛会役員)

旧杵浩氏

(諏訪神社奉賛会役員)

清安昇氏

(諏訪神社奉賛会役員)

本間吾一氏

(諏訪神社奉賛会役員)

山路長蔵氏

(諏訪神社奉賛会役員)

金子靖氏

(諏訪神社奉賛会役員)

本間吾一氏

(諏訪神社奉賛会役員)

浜田一松氏

(諏訪神社奉賛会役員)

旧杵浩氏

(諏訪神社奉賛会役員)

清安昇氏

(諏訪神社奉賛会役員)

本間吾一氏

(諏訪神社奉賛会役員)

浜田一松氏

(諏訪神社奉賛会役員)

旧杵浩氏

(諏訪神社奉賛会役員)

清安昇氏

(諏訪神社奉賛会役員)

夜
佐渡博物館及び真野町豊田地区見学

二十五日(水) 夜
真野町豊田諏訪神社前奉賛
会長金子乙吉氏(大正六年生)より
豊田地域について聞く

午後

諏訪神社資料整理及び祭礼準備調査

夜
菊地英範君の実家でこちそうになる

二十六日(木) 午前・午後
諏訪神社資料整理及び祭礼準備手伝い(?)

夜
ミーティング

二十七日(金) 午前・午後
諏訪祭礼参与観察調査

夜

豊田地区カラオケ大会見学
ミーティング



金北山にて全員集合

(4) 民俗（年中行事と人生儀礼を中心に）

年中行事、人生儀礼、

地域の宗教体系、靈魂觀、

ケガレ觀、災因論、イエ

の祭りなどの信仰、そし

て昔話、伝説、神話、世

間話などを調べる。

(2) 神社の祭礼

① 神社の歴史

文書、石碑、墓、縁起などの歴史資料、と語られた口頭伝承、神社の氏子と信仰圈、修驗道廃止令を含む神仏分離令以前と以降にみる祭神と祭礼の変遷をさぐる。

② 地域における祭礼の現状

祭りのプロセスを追うことで祭礼の実際、祭礼への参加者、地域の人々との祭礼へのかかわり方をさぐる。

(E) 合宿に参加した学生の感想

米山 信治

佐渡での祭礼調査は、とても興味深い経験でしたが、合宿四日の出来事が忘れられません。その日はお腹の調子がおかしく、せっかくのご馳走を失礼にならないようにはじめました。そんな私を気遣つて縁側で休ませてくれた真野町の人たちの温かい人情がなによりの薬になつたようで、翌日は元気になって新潟いきのフェリーに乗りました。台風の過ぎ去った後の日本海の船旅は、なかなかに私を悩ませましたが……

宮澤 聰子

佐渡、真野町での合宿を終えてから個人作業に入っている。真野の方々からお聞きした話を資料という形あるものに残すためである。

雨に濡れて消えかかっている文字は私を悩ませている。だが、村人が話してくれることはどんな細なことでも嬉しかった。何を聞いてもありがたかった。

田中 淳

我々一行は、佐渡につくと大変な歓迎を受けました。もちろん歓迎イコール「酒」であります。ほとんど毎日酒を飲み、そのせいもあって一日目、

中澤君がダウントしました。中澤君、来年はがんばろうな!! それにしても神田先生は、さすがに民俗学者というだけあって、「うわばみ」でした。

(注) 神田

中澤君は今後一年間私の前では禁酒デス。

佐藤 有理子

初めての調査で、何をやっていいのか試行錯誤をしている内におわってしまったような気がする。思い出すことといえば、菊地君宅で御馳走になったサザエのうまさと台風の影響をもろに受けた帰りの船の揺れ、先生の酒豪(?)ぶり……。

初めて踏んだ佐渡の地の、人々の熱氣と温かさに励まされた場面は数知れず。佐渡のみなさん有難う。又、遊びに行きます。

鬼山 さかえ

佐渡のゼミ合宿では、いろいろな人達と出会うことができた。最初は、どういうふうに接すれば良いか不安だった。しかし、その不安も地域のみなさんのやさしさのおかげでなくなってしまった。

私は、あるきっかけで、三人の小学生の女の子と友達になることができた。神社の本殿でその女の子達と一緒に遊んだ。とても楽しかった。来年、またあのやさしかった人達と会えるのを楽しみにしている。

菅野 由貴子

一週間滞在してみて、町全体の雰囲気や町の人々に触れ合う事がてきて、とてもよかったです。祭りの際、一軒一軒まわり、海側は、さしみ。山側は、果物が出され、ちがいに気づいた。せまい豊田地区の中でも、農村と漁村にわかれています。食べ物だけでなく、人がら、生活、行事、信仰なども、ちがいがあるのに驚いた。機会があれば、それぞれ比較してみるのもおもしろいと思った。

ゼミ合宿で現地調査を行うのは初めての経験で、いろいろととまどいながらも一回目の調査を終えることができた。今回の調査地である佐渡郡真野町豊田地区は、私の実家に近く、また、協力をいただいた現地の方々には顔のわかる方もおり、大変良くしていただいた。私たちの勉強不足のところもあり、迷惑をかけたこともあったが、とてもいい経験ができた。

見尾田 忍

神田先生のゼミに入った時から覚悟は決めていましたが、合宿の間は本当に酒を飲む機会が多くありました。私も飲むのは好きな方なので最初のうちは喜んでいたが、祭りの時には見たことや聞いたことをメモしながら歩かなければならぬのに行つた先々でお酒をすすめられ調査どころではなくなりそうだった。民俗学をやりたいと思つたらお酒に強くならなければだめかもしれないと思った佐渡合宿だった。



祭りのあとのカラオケ大会

菊地 英範

小邦宏治氏の講演会から

就職懇談会報告

去る九月二九日、万代シルバーホテルに

おいて敬和学園大学就職懇談会が開催された。これは、一九九五年三月に第一回生が卒業することをふまえ、県内の企業各社に本学を紹介するのが目的。

当日は新潟市内を始め、県内の優良企業一五〇社一七〇名の参加があり、第一部で「最近の経済動向と新規卒者の就職状況について」と題し、毎日新聞社『エコノミスト』編集長 小邦宏治氏に講演をいただいた。続く第二部では新潟県商工会議所連合会会頭中田久藏氏、及び新発田商工会議所会頭佐藤康男氏（代読）に挨拶をいただき、そのあと懇親会に移った。

第一部では、まず学長から大学紹介があり、また講師の小邦氏は、同志社大学の寮の後輩にあたり、学長が同志社大学の専任講師だった頃の学生であられたこと、一九六三年同大学の経済学部を卒業し、毎日新聞社に入社されたとの紹介があった。講演の大要は次のとおり。



冷夏は一過性のものであり、問題は円高だろう。輸出を行っている企業は、一ドル一〇五円から一一〇円位でないと、採算は合わないといつて。従ってこの景気を回復するのに一番良いのは、円高対策である。そこでこのたびの細川内閣の緊急経済対策は有効かというと、そう簡単ではないと思う。誰がやっても同じで、日本だけでも円高対策をやっても無理である。歴史的にみても一九二九年のニューヨークの株の大暴落をきっかけに、世界恐慌が起った原因除くことから判断し、景気は回復すると長い付き合いをしてきた。

本題の最近の経済動向に関しては、今年の一月・二月の先行指標の統計が良くなつてきただ。一緒に警察回りをし、その後も長い付き合いをしてきた。

六月の統計ではまた悪くなってしまった。過去の好況不況は十回ほどあつたが、三ヶ月連続して先行指標の統計がいいと景気を回復すると言われてきたのに、今回はそれが大きくなってしまった。この原因は何かというと、予期しなかつた円高と冷夏の影響だろうと思う。

企業の中でも、経理部門のように、遅行指標を見ている担当者はまだ良くならないという印象を持っているようだが、原材料の買付けなど先行指標に関する分野を担当しているところは、少しだ明るくなつてきたかなと判断している。というのは、新規住宅着工件数が立ち直ってきているからだ。また、百貨店はまだ良くはないが、他の大型小売店の販売額を見ると伸びている。さらに金融面でも小康状態から少しも回復してきているのがわかる。

任したとき、現総理大臣の細川護熙氏が朝日新聞社の鹿児島支局に一年先輩として勤めていた。一緒に警察回りをし、その後も長い付き合いをしてきた。

この政策をとらねないと、日本の貿易黒字はそう簡単には減らない。そこで一度真剣に一〇〇の単位でデノミを考えたらどうか。一ドル一円にすると、日本、アメリカ、カナダといった太平洋経済圏では、物価やインフレの動向がわかりやすく敏感になるのではないか。また、日本とアメリカの間で、五%程の一定の範囲で上下の移動制限をすることも考えられる。いろいろな意味でそのような従来の枠組みを変えるような政策を考える時期に来ているのではなかろうか。

しかし、細川内閣はそのような具体的な政策はとらず、先日発表した経済対策で、しばらく静観するつもりのようなので、早くも年内いっぱいは回復しないだろう。他の大型小売店の販売額を見ると伸びている。政府は今年度3%成長を公約しているが、このままだとゼロ成長か悪くするとマイナス成長になるかも知れない。

私が毎日新聞社に入社し鹿児島支局に赴

しかし単品では売れ行きが良いものもある。例えば液晶ビデオ、高機能炊飯器、東京のマンションの売買、環境対策の装置等である。

最後に来年の就職状況はどうかというと、バブル期のように大量に新卒者を採用する企業はないだろう。特に四年制大学の女子は深刻のようだ。有名大学の女子の内定は、まだ半分くらいという話も聞いている。敬和学園大学は再来年の卒業になるので、このまま円高が止まると、来年の夏以降は少しは良くなるのではないか。

企業としても採用しない年があると、人事政策を考えると後々悪影響が出るのも事実である。また女子の採用についても、男子と区別するようなこだわりは必要ない。むしろ、新しい環境の中では、能力など質を重視した採用が不可欠になっているのではないか、ということで、短期的な景気動向に捉われない採用が必要であろう。

入試日程

- ① 入試区分
- ② 出願期間
- ③ 試験日
- ④ 合格発表
- ⑤ 入学手続締切
- ⑥ 試験会場

- ① 推薦入試
② (郵送)11月15日(月)~11月22日(月)
③ 11月27日(土)
④ 12月2日(木)
⑤ 12月10日(金)
⑥ 敬和学園大学

- ① 一般入試
〔第1次募集〕
② (郵送)1月17日(月)~1月25日(火)
③ 2月1日(火)
④ 2月4日(金)
⑤ 2月14日(月)
⑥ 本学、新潟、長岡、上越、佐渡、東京、名古屋

- ① 〔第2次募集〕
② (郵送)3月7日(月)~3月14日(月)
③ 3月18日(金)
④ 3月22日(火)
⑤ 3月28日(月)
⑥ 敬和学園大学

- ① 敬和学園大学・センター入試
② (郵送)1月17日(月)~1月25日(火)
③ 1月15日(土)/1月16日(日)
④ 2月4日(金)
⑤ 2月14日(月)

- ① 帰国子女入試・社会人入試
② (郵送)11月15日(月)~11月22日(月)
③ 11月27日(土)
④ 12月2日(木)
⑤ 12月10日(金)
⑥ 敬和学園大学

- ① 外国人留学生入試
② (郵送)11月22日(月)~11月30日(火)
③ 1月22日(土)
④ 2月4日(金)
⑤ 2月14日(月)
⑥ 敬和学園大学

別室での懇親会では、大学側は精力的に企業からの出席者との懇談を行い、今後の就職活動の弾みになつたことはもちろん、企業の方々も充分に理解して下さったものと思う。就職委員会の今後も活躍を期待するとともに、学生諸君の意欲的な取り組みを期待してやまない。

●教職員 おめでた・おくやみ

教職員の慶弔懇を掲載することになりました。今回は下記のとおり1991年4月に遡り掲載いたします。

結婚

斎藤 一浩 (図書係)	1992年3月22日
(鈴木) 美奈子	
船岡 芳晴 (教務係)	1992年5月2日
(斎藤) 美奈子	
金山 亮太 (非常勤務講師)	1993年9月26日
(千葉) 愛子 (専任講師)	
小竹 城 (会計係)	1993年10月10日
(増井) 佳子 (総務係)	

出産

赤ちゃん	保護者	誕生日
幸	上野 恵美子 (助教授)	長女 1992年10月27日
萌	船岡 芳晴 (教務係)	長女 1992年3月3日
香菜子	西村 秀雄 (専任講師)	長女 1993年4月7日

召天

道重成美(68才)	道重一郎(助教授)	実父	1992年7月7日
安藤直子(84才)	安藤司文(教授)	実母	1992年9月10日
田邊勇助(80才)	田邊昌邦(教務課長補佐)	実父	1992年11月22日
益谷寿(70才)	益谷真(専任講師)	実父	1993年5月8日
アン・ブロンデ(83才)	アラン・ブロンデ(助教授)	実母	1993年8月28日
市川惣蔵(78才)	岩倉依子(助教授)	実父	1993年9月19日

FROM CAMPUS

6月

- 25日 3年次生就職オリエンテーション
 「県内有力企業について」
 講師 第四合同ファイナンス株社長 富井 汪氏
 「公務員希望者の心得について」
 講師 新潟市役所 総務部総務課長補佐 伊藤 英二氏
- 30日 3年次生保護者就職懇談会 於 新潟東映ホテル

7月

- 3日 大学・高等学校教職員交流会 ソフトボール大会 10対8 高校の勝ち
 7日 第30回教授会
 9日 前期試験開始 (15日まで)
 14日 ノースウェスタン大学 夏期短期留学出発(8月19日)まで
 16日 夏期休暇開始 (9月18日まで)
 敬和学園大学後援会役員会
 17日 教職課程事前研修 於 国立妙高少年自然の家(18日まで)
 サンバナティノ校 夏期短期留学出発(8月22日まで)
 18日 アングロコンチネンタル 夏期短期留学出発 (8月23日まで)
 24日 キリスト教学校教育同盟 第37回事務職員夏期研修会
 於 御殿場東山荘(26日まで)
 26日 キリスト教学校教育同盟 第63回夏期研修会
 於 御殿場東山荘(28日まで)

9月

- 3日 グラウンド防球ネット工事開始



- 12日 教職課程事前研修 於 国立妙高少年自然の家(13日まで)
 13日 ゴランティア・ワーク(18日まで)
 17日 敬和ふれあいコンサート(18日まで)
 公開講座 開講式
 第1回「鉄砲伝来と日本人」講師 片桐邦郎教授
 20日 後期講義開始
 22日 第31回教授会
 24日 公開講座 第2回「コミュニケーションと国際化」
 講師 ジェイムズ・ブラウン助教授
 29日 新潟県下企業各社との就職懇談会 於 万代シルバーホテル
 30日 事務職員 増井佳子結婚退職

10月

- 1日 公開講座 第3回「ルターの思想とその遺産」
 講師 岩倉依子教授
 就職オリエンテーション「女子の就職状況について」㈱リクルート社
 8日 公開講座 第4回「できごとの認知と言語表現 日英語の比較」
 講師 上野恵美子助教授
 就職オリエンテーション
 「旅行業界志望者の心得について」
 トラベルジャーナル社 専務取締役 高梨 洋一郎氏
 元ソーカンタクター 小林 まき子氏

キャンパス日誌

9日 就職オリエンテーション

- 「高等学校教員試験受験希望者の心得について」
 講師 新潟県立長岡高等学校教諭 水野 幸二氏

10日 リトリート 於 池の平「向山荘」

13日 第32回教授会

15日 公開講座 第5回

- 「ライフの伝説」M.Bourke-White 講師 北嶋藤郷講師
 就職オリエンテーション
 「公務員試験ガイダンス」講師 LEC 東京リーガルマインド

22日 公開講座 第6回

- 「国民文学としての旧約聖書」講師 永野茂洋助教授
 学術講演会 「ジョージ・ティクナーと謄写・漱石」
 講師 元茨城キリスト教大学長 萱藤 裕治氏

「今年度就職状況の総括について」講師 倫日経ディスコ

23日 敬和学園高等学校PTA校舎見学 学長講演



10/23 PTA来学 学長講演

29日 公開講座 第7回

- 「異文化コミュニケーションの視点」講師 野村啓治講師
 就職適性テスト

11月

1日 「第三回敬和祭」(3日まで)



11/1 第三回敬和祭

5日 公開講座 第8回 「日本の短歌」

- 講師 サンフォード・ゴールドスtein教授

就職オリエンテーション

- 「新潟県内の今年度就職状況について」講師 ㈱UPU